

普及活動情勢報告（令和2年12月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

輪作体系の確立を目指して ～冬春ニンジン実証ほの収穫始まる～	
	<p>11月26日、集落営農法人（株）サンビレッジ四万十において、試験栽培したニンジンの収穫が始まりました。</p> <p>四万十町では、高いほ場整備率を背景に露地ショウガの大規模栽培や水稻栽培が盛んに行われています。しかし近年、ショウガの土壌病害の発生や米価の下落が農家経営に及ぼす影響が大きくなっており、高収益露地野菜による輪作体系の確立が水田農業の新たな課題となっています。</p> <p>普及所では有望品目の一つとして秋播きニンジンを選定し、サンビレッジ四万十に実証ほを設置し、調査してきました。経営評価はこれからですが、間引き作業を省力化することができるかどうか、大規模栽培に向けてのポイントになりそうです。</p> <p>普及所は、農地を守る農業者の取り組みを支援していきます。</p>
収穫期を迎えたニンジン 実証ほ	

今後の管理はどうする？ ～キュウリ部会現地検討会の開催～	
	<p>12月16日、環境測定データの活用に向けて、J A高知県四万十キュウリ部会の現地検討会が開催され、生産者3名が参加しました。</p> <p>環境測定データと生育調査データを比較し、今までの管理と今後の管理についての意見交換を行いました。</p> <p>生産者からは、「夜温や夕方の温度が生育に最も影響があると思う。」「今後、日射量が増加するにつれて温度管理を変更しようと考えている。」などの意見が多く出ました。</p> <p>普及所では今後もJ Aと連携し、キュウリの厳寒期の増収に向けて取り組んでいきます。</p>
生育状況を確認する生産者	

目指せ増収！！ ～ミョウガ環境測定データを活用した勉強会の開催～	
	<p>12月18日、J A高知県四万十ハウスミョウガ部会では環境測定データを活用した勉強会を開催し、9名の農家が参加しました。</p> <p>高収量農家の現地ほ場において、厳寒期の管理や、ミョウガの生育について検討を行いました。</p> <p>参加した農家からは、「急激な温度変化を抑える管理をしようと思う。」といった前向きな声が聴かれました。</p> <p>また、農家間でお互いの栽培管理について質問するなど、活発な意見交換が行われました。</p> <p>普及所はこれからも、J A営農指導員と協力し、四万十町興津地区のミョウガの生産技術向上を支援してきます。</p>
現地検討会の様子	

目指せ平均反収100kg！ ～大豆の収穫最盛期～



大豆の収穫作業

四万十町では、11月12日から営農支援センター四万十(株)による大豆の収穫が始まりました。

今年は、施肥や中耕など基本技術の励行に加え、新除草剤の体系処理試験やドローンによる農薬の空中散布など新しい技術を取り入れて増収を目指してきました。6月下旬に播種し11月下旬に収穫を終えたほ場では、平均反収が140kgを超えましたが、12月に収穫される7月下旬～8月中旬播種分は収量が少ない見込みです。

適期播種、帰化雑草、湿害及び鳥獣害の回避など課題はまだまだ多いですが、普及所は今後も一つ一つの解決策を提案し、実施に向けた支援をしていきます。